

資料3 . 調査マニュアル

は、調査の流れと一致しています。

はじめに	3
調査の概要	4
調査のながれ	5
問い合わせ、保険	6
3 アンケート調査	22
方法	22
調査用紙の説明と記入例	22
4 返送	24
5 データチェック	25
6 調査結果の取り扱い	25
現地調査	12
調査日時と方法	12
鳥類の調査	12
ロードサイト調査と 定点調査の特徴	13
環境の調査	14
Q & A	15
調査用紙の 説明と記入例	16
<資料>	
1 種名コード	26
2 調査コース番号について	28
3 3次メッシュについて	30
4 環境要素の区分	32
5 繁殖可能性の基準と判定	34
6 観察事項の判定項目	35

「種の多様性調査・鳥類生息分布調査」とは

本調査は環境庁の生物多様性調査の一環として行なわれるのですが、以前から行なわれていた自然環境保全基礎調査から移行して、名称が変わりました。自然環境保全基礎調査は「緑の国勢調査」とも呼ばれ、自然環境保全法第4条に基づき、1973年から概ね5年ごとに実施されることで義務づけられています。

鳥類調査のながれ

鳥類調査は、第2回以降日本野鳥の会が委託を受け、対象動物群の分布調査の中でも、もっとも詳しい調査が行なわれています。

- 第1回 すぐれた自然調査 1973年
重要な個体群の繁殖地、渡来地をプロットし生息状況を調査
- 第2回 繁殖分布調査 1978年
国内で繁殖している257種を対象とした分布調査
- 第3回 冬鳥分布調査 1984年
国内に生息している全種を対象とした冬期の分布調査
- 第4回 集団繁殖地と集団ねぐらの調査 1989～1991年
集団繁殖地やねぐらをつくる22種を対象に分布、個体数、環境特性などを調査
- 第5回 種の多様性調査・鳥類生息分布調査(全国分布調査) 1997～1998年
平地部・山麓部を対象とした繁殖の調査(このマニュアルにより実施されます)
- 第6回 種の多様性調査・鳥類生息分布調査(全国分布調査) 2000～2001年
山地部を対象とした繁殖の調査(予定)

目的と意義

今回の調査は、鳥類の繁殖期における生息分布の現状を、全国的に把握します。また20年前に行なわれた第2回の調査結果と比較し、各種鳥類の分布や繁殖可能性のランクの変化、そして環境変化との関連などを明らかにしていきます。

これらの調査結果は、報告書や地図等にまとめられ、公表されます。そして国土や地域の保全計画、多様な環境への働きかけのあり方などをさぐるための、自然保護の基礎的な資料となります。

調査の概要

今回の調査は、現地調査 (p12参照) とアンケート調査 (p22参照) です。
 現地調査はいわゆる野外調査で、1回実施します。推薦された調査員に指定された調査コースで調査を行なっていただくものです。

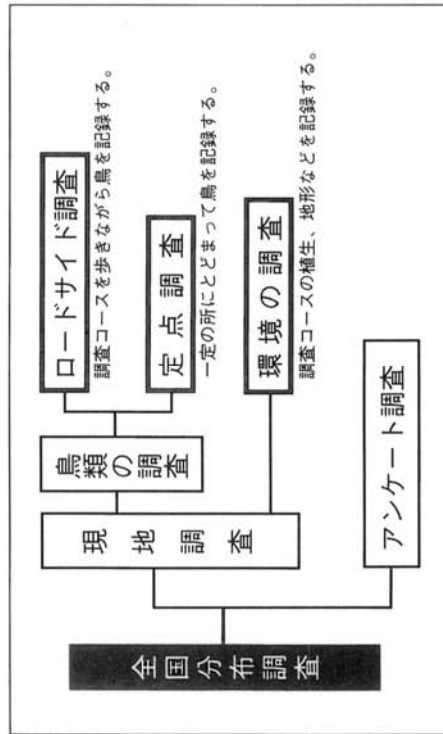
▼ 調査の種類

ロードサイド調査：歩きながら鳥を記録する。
定点調査：一定の所にとどまって鳥を記録する。
環境の調査：調査コースの植生、地形などを記録する。

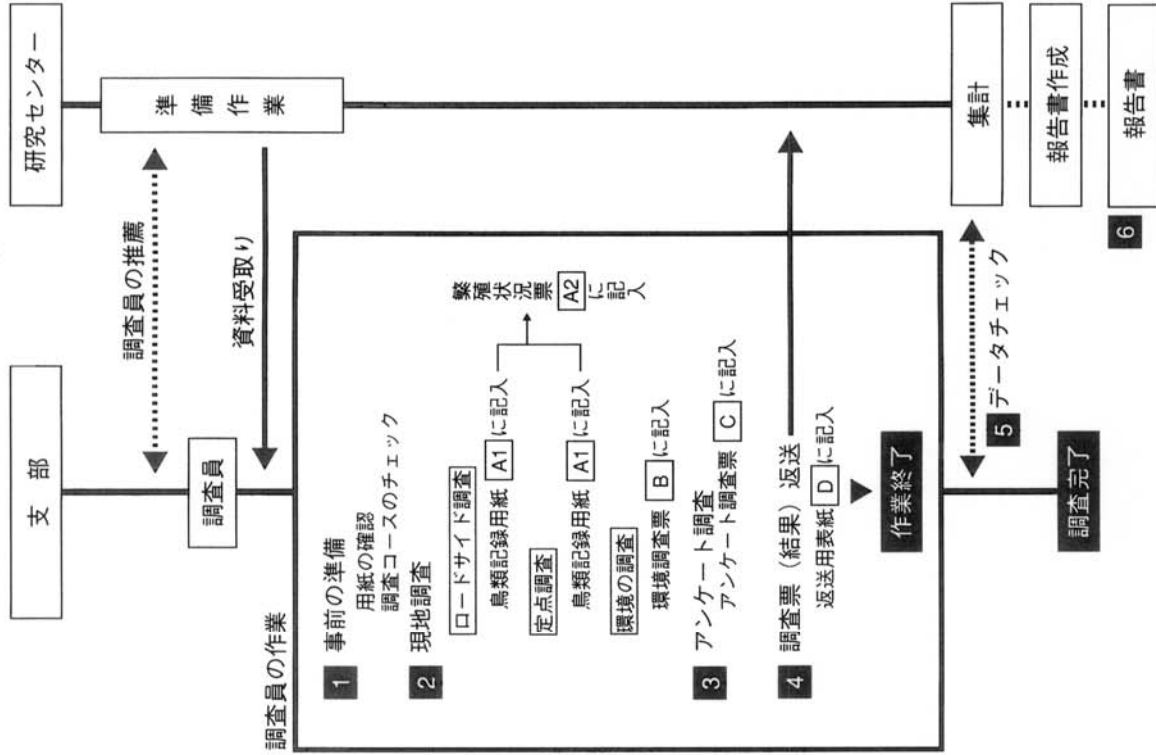
「ロードサイド調査」と「定点調査」で鳥類の繁殖の状況と個体数を調査し、3次メッシュ (p30～31参照) ごとに記録します。また、同じ調査コースで「環境の調査」も行ないます。

アンケート調査：現地調査を行なわない地域や時期などの鳥類の生息状況や分布について、調査員が所有する情報を報告していただくものです。

- 調査地は日本全域です。
- 記録は1997年から2001年の5年間 (予定) のものに限ります。



調査のながれ



事前の準備

疑問・不明な項目の問い合わせ方法と問い合わせ先

研究センターでは電話、FAX、e-mailによる問い合わせに対処する体制を取ります。電話の場合は担当が所を外したり、問い合わせ内容、本人の確認等に間違いが生じる可能性が高いため、問い合わせはできるだけFAXやe-mailにてお願い致します。

(財) 日本野鳥の会 研究センター
全国分布調査担当者 (成末 雅恵 / 成江 智I) 宛

FAX : 042-593-6873

e-mail : PXP10344@niftyserve.or.jp

〒191-0041 東京都日野市南平2-35-2 WING 1F

TEL : 042-593-6872

保険について

「現地調査」を依頼された調査員には、研究センターの負担で探鳥会保険に加入していただきます。手続きは研究センターでいたします。現地調査をする調査員は、もれなく研究センターまでお知らせ下さい。また、現地調査のサポーターの方でも、万一の場合はお知らせ下さい。くれぐれも事故にはご用心下さい。

保証額

通院1日につき、1,000円
入院1日につき、1,500円
死亡1名につき、100万円

ここでは、確認していただくこと、調査で現地へはいる前の準備として必要な項目、注意事項、変更処理等の大切なことを解説します。後の現地調査をスムーズに行なうため慣れない用語もあると思いますが、大切な事柄ですので、よくご理解下さるようお願いいたします。

用紙確認

研究センターより調査員みなさんに送付した調査に必要な書類です。ここでは用紙の種類と役割、そしてその処理を解説します。用紙の実際の書き方は、後述します。
まずは同封した書類をご確認下さい。

略号	書類名	解説	野外で使用	研究センターへ返送
—	調査マニュアル	この書類です。現地調査前に充分にお読み下さい。野外に出る場合も持って行って下さい。	○	—
M	調査コース地図	調査コースが表示されている地図です。縮尺は1/5万です。(調査コースを変更の場合、別途指示)	○	変更した場合のみ変更コースを記入して返送
調査用紙類				
A1	鳥類記録用紙	野外でロードサイド調査、定点調査に使用します。	○	○
A2	繁殖状況票	ロードサイド調査、定点調査の結果を3次メッシュごとにまとめて記入します。	—	○
B	環境調査票	野外で調査コースの環境を記録します。	○	○
C	アンケート調査票	アンケート調査票	—	○
D	返送用表紙	調査書類返送のおり、表紙として頂く用紙です。	—	○

調査コース番号と3次メッシュについて

▼ 調査コース番号

調査コースを識別する6桁の数字で、調査コース固有の番号です。調査員のみなさんにはこの調査コース番号で、調査をお願いしています。(資料2、p28~29参照)

▼ 3次メッシュ

8桁の数字で地図上の約1km四方の位置を特定します。この8桁の数字をメッシュコードといい、これによって日本全国の位置を把握することができます。調査員は、現地調査(およびアンケート調査)で鳥類の位置を3次メッシュで記録することにより、分布の記録をとることになります。(資料3、p30~31参照)

調査コースのチェック

▼ 地図上での調査コースの確認

送付の「調査コースの地図」は1991年度までに国土地理院にて作成された地形図をもととしています。できると新しい地図で調査コースを確認して下さい。

注意：「調査コースの地図」の縮尺は1/5万です。

▼ 調査コースが実際に歩いて調査できるかどうか、事前に調べる。

地元の人に聞くなど、事前に下見をしておくことをおすすめします。

がけ開れなどで実際に調査が不可能と判断された場合は、p10の「コースの変更」にしたがって、調査コースの変更を行なって下さい。

▼ 3次メッシュとの交点の確認

3次メッシュごとに記録をとるので、調査コースと3次メッシュとの交点は、事前に調査コース地図で確認しておいて下さい (p9のイラスト参照)。

▼ 距離、調査に必要な時間の推定

現地調査の調査コースは、踏査距離約3キロ、正味2時間半～3時間が目安となっていますが、コースによって幅があります。距離、高低差、現地までの時間等を加味して予定を立てて下さい。

▼ 調査の留意点

- ・3次メッシュごと、調査方法 (ロードサイド調査、定点調査2か所) ごとに記録を分けます。
- ・観察コードと繁殖ランクについて
調査の基準として巻末資料の「観察事項の判定項目」(資料6、p35) を参照して、「鳥類記録用紙」[A1]に観察コードを記入し、調査終了後、繁殖可能性のランクを判定して「繁殖状況票」[A2] に記入します。

▼ 現地調査に必要なもの

- ・調査マニュアル
- ・調査コース地図
- ・調査用紙…「鳥類記録用紙」[A1]、「環境調査票」[B]
- ・観察道具 (双眼鏡、望遠鏡、図鑑類等)
- ・筆記用具
- ・時計、コンパス (方位磁石、メッシュの特定に必要)
- ・周辺の地図
- ・その他野外活動に必要なもの

調査コースのチェック

下のイラストの例では、ロードサイド調査で3次メッシュ、41、42、43、53を調査します。定点調査では、定点P1は3次メッシュ42に、定点P2は3次メッシュ53にあります。

調査コースと3次メッシュの交点は事前に調査コース地図で確認しておかなければなりません。このイラストの場合、橋や数塔を目印とすることができます。

